第 2015-39 号

恵みと真理のニュース

2015 年 9 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 神様は不意の事故に会った息子の命を生きてくださり、私の重い病気を癒してくださいました

私はキョンナンハッチョンで4男３女の中で長女と生まれ貧しかったので早く家を出て他郷で熱心に仕事をしました。そして24歳の時隣りの家に住んでいた執事の伝道でプサンにあるドンレ教会に行きイエス様を受け入れました。次の年熱心に信仰生活をしている時に今の旦那に出会いました。

結婚以前は共に教会にも通い結婚式も教会でしましょう約束もしましたが守らなかったです。わたしと旦那の両親は儒教を信じていて家の反対で教会で結婚式は出来ませんでした。教会に通うことさえも反対して結婚してからはむしろ旦那まで両親と共に私に偶像崇拝を強調しました。神様に対する強い信仰ではなかったので家族の雰囲気に圧倒され罪である偶像崇拝をしながら生きました。ある日から周りの人々から伝道されてもその話は耳に入らなかったです。

その後25年間が過ぎて2008年4月22日の事でした。旦那から青天の霹靂のような消息を聞きました。息子が大学でオートバイ事故で頭を酷くけがして今病院に運ばれたのことでした。急いで病院に走って行ったら息子の状態は酷かったです。やっと応急処置だけしてプサンにある大きい病院に移動して私は絶叫しました。“ジョンウン大丈夫　、無事に治るよ。治療を受けると治る。お母さんが愛するの知っているでしょ。生きてね。”

病院に着いたら医師は息子の目を診察し色々なところを診察して“残念ですね”と言われました。それでも一旦手術をして見ますと言って夜10時から夜中5時まで脳手術しました。長い大手術を受けましたが集中治療室が空いてなくて応急室で3泊4日泊まって頭は血だらけの包帯を巻いたまま集中治療室で移動されました。意識がないままでした。旦那は“私が今まで優しくした事もなくてどうやって離れるか、それは出来ないと涙だけ流しました。

その時から私は処女の頃信じて委ねた神様を考え教会を思い出しました。“あなた、私たち神様へ戻りましょう。 神様に許しを求めて神様を信じて祈りましょう。”この機会に私たちが再び信仰を回復しましょう。 偶像宗教を捨てて生きていた神様だけを信じることにしましょう。”旦那の手をつかまえて、このように強く言い旦那に訴えました。 そして、直ちに病院の近くにある教会を訪れました。まだ夜明けだからドアが閉まっている教会の前で膝をまずいで切なく神様に祈りました。“神様、私が長い間、人生をさ迷い空しい生活をしたことを悟って主の所に来ました。再び神様のところから離れなくさ迷わなく主だけ支えます。神様、息子を助けてくださいと何日間泣いて祈り、なきながら祈りました。

その時恵みと真理教会で通う妹が息子の話を聞いてザンユ聖殿の牧師と共に訪問すると言いました。その日から恵みと真理教会牧師が病院に来て息子が起きるように祈ってくださいました。また、希望の御言葉で私達の家族を慰めてくださいました。その後何日が過ぎて神様の恵みで奇跡のように息子の意識が戻りました。意識が戻った後すぐ話したのが“お母さん、神様が私をタクシーを乗せてくださって私が家に戻って来ました。としました。ハレルヤ！息子が事故に会って二ヶ月後2008年6月22日に息子と私の夫婦は恵みと真理教会のザンユ聖殿に行って礼拝をし決信しました。

私も神様に癒す恵みを受けました。2012年冬ある主日に1部礼拝を捧げてマンナ室で奉仕をする時、急に胃が苦しくて中から熱いのが出てくる現状がつづけてタクシーに乗って病院に行きました。検査を受けた結果　“胃癌の初期の判定を受けました。初めはとても恐ろしくて心がどきどきしました。すぐ落ち着いて神様の御言葉を黙想し切に神様に祈りました。“神様、病気を早く知るようにしてくださったこと感謝します。神様が治療してくださる事を強く信じます。私はこの世でまだやる事がたくさんあります。神様の御言葉に忠誠しなくて愛を尽くさなかったです。時間をください。牧師と区域の聖徒達が私のため朝夜祈ってくださり、私も息子を生きてくださった主の慈しみと豊かな恵みの中で今日も主が働くことを信じ仰ぎました。神様の恵みで手術が成功的でした。まもなく退院して後遺症もなく健康が回復しました。

神様は私の家庭を救ってくださるため息子を通して恵みを与えてくださった事に感謝します。それだけでなく私の信仰をもっと硬くしてくださり神様を畏れ委ね常に感謝する生活をしてくださった神様に感謝します。私と息子が決信した後から休まずに礼拝に行き礼拝の楽しみを味わっています。このように神様からいただいた愛と恵みと権能を伝える喜びで生きるようにしてくださった事、限りなく感謝と賛美します。今の祈り課題は揺れやすい旦那の信仰が強くなり、全ての家族が変らずに教会と聖徒を支え福音伝道の使命を担えて主と共に褒められ栄光である嗣業を受けることです。真実な神様が答えてくださることを信じ感謝します。“ 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。”（ロマ書8：28）アーメン

［信仰コラム］ イエス様が見られた信仰

“ … 人々がひとりの中風の者を四人の人に運ばせて、イエスのところに連れてきた。 ところが、群衆のために近寄ることができないので、イエスのおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて、中風の者を寝かせたまま、床をつりおろした。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、「子よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。 … ”（マルコによる福音書 2:1～12）

一般的に私たちが人を対する時に相手の姿や状態を察します。 そうする時何をまず見るのかということは私たちの職業や関心事によって違うでしょう。 聖書の福音書を見ればイエス様が人を対する時何に関心を持つかを読めます。 イエス様の助けを望で来る者を見る時その人に信仰があるかを見ました。 イエス様は私たちにある信仰を見ます。 そしてその信仰を現実になるようにします。

第一に、私たちが信仰を持たなければなりません。

信仰には知識が必要であるが知識がすなわち信仰ではないです。 聖書に対する知識があっても聖書を信じない人がまたあります。 信仰は知識を自分に適用させることであり、その知識に自分を出して任せるのです。 ここで話す信仰と言うのは神様を向けた信仰でまた神様から与えられる信仰を言います。 これは聖書に啓示された神様に対する信仰です。 それだけではなく聖書に啓示された神様の計画と口約束に対する信仰です。 神様は信じる者に愛と権能を現わしてその口約束を成します。

二番目で、信仰を持続的に持たなければなりません。

一度　持った信仰は自然に尊属して維持されるのではないです。 毀損されて消滅したりします。 信仰を持続的に持つためには意志的な決断と努力がなければならないし、信仰をずっとしっかり守るためには激励が必要です。 このため最上の方法は神様のお言葉をきくのです。 神様のお言葉を昼夜に黙想して神様の言葉をお聞きするのを楽しがれば信仰を持続させて行くことができます。 四人が中風病者を担架に寝かすにイエス様がいらっしゃる家に駆けて来て屋根をくぐって中風病者の横になったのをイエス様の前に下ろしてついに病気のいやしを受けるようになった記事で私たちの学ぶことはどんな障害と難関が会っても信仰をずっと立て通しなさいというのです。

三番目で、信仰を見せるようにしてください。

私たちの心霊の中にある信仰は見えないです。 この信仰の見られる信仰にならなければなりません。 中風病者を寝床のまま屋根の上に乗せた四人はイエス様がいらっしゃる所の屋根を取り離しました。 屋根が大きく通ずると寝床をつけて下りました。 驚くべきことにイエス様はその席を外さないでそっといらっしゃいました。 この無礼きわまりない人々をいつまでも容納と待ちました。 イエス様は彼らの無礼な行為ではなく彼らの信仰が行為で現われたことを見たのです。 彼らの奇抜で果敢な行為に現われた信仰、彼らの協力する行為に現われた信仰、他人の家に被らせた被害を償う覚悟を持って屋根を取り離す行為に現われた信仰を見ました。
イエスキリストが彼らの信仰を見たというお言葉に留意してください。 私たちの信仰を言葉で表現することで見える信仰にならせなければなりません。 また、私たちの生活態度で信仰が現われたように見えるようにしなければなりません。 聖なる神様、義のある神様、愛の神様に対する信仰が私たち人格の中に沈みこんですべての生活態度で現われなければなりません。 神様が約束したお言葉を固く信じたらそのお言葉を信じる信仰が喜びで、すべてに感謝で、忍耐で現われなければなりません。

皆さんは神様の品性とお言葉に根拠した信仰を多様で豊富に持つようにしてください。 お互いに励まして神様のお言葉を重ねてきくので信仰を固く持つようにしてください。 そして言葉と行実を通じて ‘見える信仰’、‘現わす信仰’になるようにしてください。 そして神様が見る信仰になってさらにはその信仰が現実で成り立つことが続かれるように願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

変化と幸せ

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人々に “あなたは幸せですか?” と質問すれば “幸せです” “幸せではないです” “まあまあです”という返事をするでしょう。人々に “幸せと言うのは何ですか?” と尋ねればその返事もさまざまであるでしょう。 まことの幸せに対する定義は聖書に啓示されています。 聖書は何が幸せで幸せな人が誰なのかを絶対的な権威としておっしゃっています。聖書に啓示された本当に幸せに関して私たちが多くの側面でよく見られます。 今日は “変化”という言葉に係わって何が真の幸せで誰が幸せな人なのかをよく見ます。 その変化とはキリストによる変化です。 キリストにあって経験するようになる変化です。

第一は、霊魂が生まれかわる変化です。生まれかわる変化を受けた人はまことに幸せな人です。

生まれかわる変化はその人の本質が新しくなる変化です。 その本質と言うのは霊魂を意味します。 初の人アダムはサタンの誘惑に負けて神様の命令を逆って不服して犯罪者になりました。 そしてアダムの霊魂はとがと罪で死んだ状態になりました。 アダムによってアダムの子孫の霊魂も咎と罪で死んだ状態にあります。このような霊魂は神様の震怒の下にあって結局地獄の刑罰に処するようになります。 この悲劇的な運命から脱する道はこの世の中を生きる間にその霊魂が変化を受けなければなりません。その変化は人間の努力と行為では全然不可能です。 ところで驚くべきことに神様が一つ解決策をくださいました。 その解決策と言うのはあがないを通じる贖いです。 あがないと言うのは罪人のために代わりに刑罰を受けて血が流れてたまらないことを言います。 ヘブル人への手紙, 9 章 22 節には “ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。” と言いました。 私たちの罪をあがないするための神様の計画は多くの形に予言されて例示されました。 旧約時代の贖いに関する事物や行事は皆一致するようにイエスキリストを示す影、象徴、模型でした。 時になると神様がイエスキリストを世の中へ送ったし、イエス様は父のみ旨に従って十字架に釘付けられて死ぬまで従順して私たちの罪をあがないしました。

そして誰でもイエスキリストを信じて迎接さえすれば彼の霊魂が驚くべきな変化を受けるようになります。 本文に記録されるのを “だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。”(コリント人への第二の手紙, 5 :17) としました。 “誰でも”という言葉は差別がないという意味です。“キリストにあるならば”という言葉は条件を意味します。

キリストを信じて迎接することを言います。“新しく造られた被造物”という言葉は本質上の変化を意味します。 “古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである”という言葉は以前と違う新しい本質を持つようになったことを示します。 クリスチャンはこれ以前の人ではないです。 新しい生命を得て生まれかわった とても新しい人です。 キリストにあればこのように霊魂が変化されます。聖書にはこのような霊魂の変化を生まれかわることで説明しましたイエスキリストがニゴデモにおっしゃるのを “イエスは答えられた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。”(ヨハネによる福音書 3:5～7) としました。 生まれかわることはイエスキリストに対して記録された神様のお言葉を信じてイエスキリストを迎接して罪の洗うことを受けて聖霊によって新しい生命を得てまた変わるようになることを言います。生まれかわることは肉身で感ずることができるのではないです。 クリスチャンは霊魂が生まれかわる変化を受ける人です。 まことに驚くべきで不思議な福を受けた人です。

二番目は、キリストでよる身分の変化です。 主にあって身分が変化された人はまことに幸せな人です。

霊魂が生まれかわる変化を体験した人には他のさまざまな変化が従います。 身分の変化です。 神様の子、義人、聖徒、天国市民という称号と呼ばれるようになります。 このような称号も努力の結果ではないです。 生まれかわった人にくださる神様の贈り物です。 神様の子になりました。 身分上の途方もない変化です。 ヨハネによる福音書 1 章 12 節、13 節に記録されるのを “彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。”と言いました。 霊魂の生まれかわった人は義人になりました。 罪人が義人という身分的変化を着るようになったのです。 ここで言う義人と言うのは神様の前で罪のない人に認められて神様がくださる完全な義を所有した者で判定を受けるようになった者を言います。 霊魂の生まれかわった人は聖徒になりました。 聖なる人です。 神様によって区別されて、神様のために区別された者を示す言葉です。 霊魂の生まれかわった人は天国市民になりました。地獄に入る者が天国市民になったからその身分の変化がいくら驚くべきで感謝した事かすべて形容するあてがないです。 使徒パウロはビルリブボ教会の教人に “わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。”(ピリピ人への手紙, 3:20)と言いました。神様の子、義人、聖徒、天国市民という身分は霊魂が生まれかわった人にくださる神様の贈り物です。 これによる幸せは世の中が与えることができないし奪うことができないです。

三番目は、イエス様の再臨の時に経験するようになる肉体の変化です。 こんな変化を着る人はまことに幸せな人です。

この世の中に存在するすべての事物は絶えず変わっています。 人工の力を加えて作るので秩序が与えられるが、時間の流れとともに結局には無秩序になって使用価値がないことに変わってしまいます。 美しいのがみにくく変わります。 生命を持ったのが死骸に変わります。ところで嬉しくて恵まれた消息があります。年を取って行くことを悲しがるとか死を嘆く必要がないようにしてくれる朗報です。 肉体が美しく変化される消息です。 死亡者がまた生き返えて、最上の姿に変化される日が来ます。この消息はイエスキリストの復活によったのです。 イエス様の復活はいまから近付く聖徒の復活を予告するのです。

イエスキリストが再臨なさる時にある聖徒の復活と変化に関して テサロニケ人への第一の手紙 4 章とコリント人への第一の手紙,15 章にはその場面と姿を目に浮ぶように描いて見られるように記録しておきました。

“天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。”(コリント人への第一の手紙 15:40～44, 51～53). 変化された身に対して啓示されたお言葉を整理して見ればこのようです。 腐る身が腐らない身に変化されます。恥かしい身が光栄な身に変化されます。 弱い身が強い身に変化されます。 肉の身が神霊な身に変化されます。 地に属した形体が天に属した形体に変化されます。 死ぬ身が死なない身に変化されます。

クリスチャンはとても驚くべきな変化を経験するようになります。 クリスチャンが幸せな人という証拠がここにあります。 第一は、霊魂が生まれかわる変化です。 二番目は、身分の変化です。 神様の子、義人、聖徒、天国市民になります。 三番目は、肉体の変化です。イエスキリストが再臨なさる時に復活して変化して腐らない身、光栄な身、強い身、神霊な身、天に属した者の形状、死なない身を着るようになります。 クリスチャンは世の中の人々に幸せを感じらせるその何が不足とか消えると言っても不幸ではないです。 ただどの位の苦痛と不便があるだけです。 クリスチャンの幸せに対する概念が世の中の人が持つ幸せの概念と違うからです。 キリストにあって不思議で驚くべきな変化を着ました。 このような変化による幸せは世の中のどれとも替えることができないです。 比較されることができないです。 聖徒の皆さんはイエスキリストにあって得るようになった途方もない変化、無限に恵まれた変化によっていつも心に喜びと感謝と幸福感が一杯になるように願いします。